

日刊 勤労千葉

86. 10. 17
No. 2382

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

全国の仲間たち、 あらゆる創意、あらゆる戦術で 全職場地域から実力反撃に起せよう

10.12 国鉄労働者 総闘
中野委員長 提議



「全国全ての職場から創意工夫の総決起を、
檄を發する中野委員長（10.12集会、清水公園）」

勤労千葉は、国鉄のあらゆる職
場からわれわれとともに起ち上る
ことを訴える。このことが唯一、
分割・民営化を粉碎して国鉄労働
者が生きる道である。その情勢が
きた。いまこそ、全国を席卷する
全国ゼネストを実現しよう。

（要約・見出しは文責「編集局」）

ついに待ちに待った時がやってきた

本集会は、いよいよ国鉄労働者が分割
・民営化阻止にむけて総反撃を開始する
宣言をする集会だ。待ちに待った時がや
つてきた。
権力者どもが勝手につくった赤字を背
負わされ、ブラ勤・怠け者のレッテルを
はられ、職場では人間扱いしない理不尽
な攻撃と、敵側の手先・裏切り者―動労
・真国労の革マルを先頭とする輩の跋扈
を許し、70余名の国鉄労働者が虐殺され
た。

こうした怒り、抑圧を解き放ち起ち上
る時がきた。

その最大の根拠の一つは、修善寺の国
労臨時大会の結果だ。中曽根・杉浦は国
労の一部幹部をとりこみ「労使共同宣言」
締結という無条件降服を強いることを通
して国労解体を画策した。

これに反撃する職場生産点の労働者の
間では一切の妥協は存在しない。多くの
仲間が自殺に追いやられ、全国の職場で
理不尽極まりない攻撃は続いている。
こうした当局と労使共同宣言を締結し
ても労使協調なんてあるはずがない。相
いれるわけがない。

臨時大会の勝利は、九月大阪地本大会
からはじまり、九・二四中執委、千葉地
本大会の闘い、何よりも「人活」の労働者が
捨て身で立ち上り、中曽根・杉浦の手先
となつて敵に国労を売り渡す策動をも
の見事に打ち破つた。

臨大の偉大な勝利をあい まいにさせてはならない

新しく選出された執行部は「分割・民
営化絶対反対だ」といい、「労使共同宣
言を結ばない」と断言した。これは、闘
う以外に残された道はない。問題はそれ
を選択するか否か、重大責任を負わされ
ている。

われわれは、この偉大な勝利をあいま
いにさせないために断固起たねばなら
ない。新執行部は革同・協会派の指導下
であることは明らかだ。新執行部を職場
の労働者、闘う方針を求める労働者がつ
くりあげたことも間違いない。しかし、
今日に至るまで何んら闘いを組織せず、
この事態にまで至らしめた責任から新執

行部諸君がまぬがれると思つたら大間違
いだ。

過半数を制す勢力をもちながら今だか
つて何ひとつ闘いを組織しなかつたこと
について「主流派」だけの責任に負わせるこ
とができるのか。そうではない。そのこ
とも正確に見きわめなければならぬ。
ならば、現場の怒りを総結集して全国か
らの実力反撃IIストライキに起ち上る実
践方針を示していかなければならない。

このことの「責任を果す」ためにも実
力闘争方針を直ちに示さねばならない。
そして、国会で関連法案がさしたる審
議もないまま、ダラダラ続けられ、多く
の労働者はTVにクギづけになつて見て
いて失望しているかもしれない。

社会党・総評は真剣に闘おうとしない。
法案を通すことは大変なことを意味す
るのだ。いま国鉄職場で起つてること
は、まさしくこれからの日本の社会を予
知するものだ。この攻撃は、国鉄改革な
どではない。労働組合を叩きつぶし、屈
服させ、労働者を権力の側にとりこもう
という攻撃だ。一切の焦点はここにある。

（裏面に続く）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

敵が一番恐れている ことを徹底的にやる

敵には余裕がない。人活の自主的闘いに調整を余儀なくされ、国労臨大の攻防が満天下の注目を集め、十月一日からの動労千葉の非協力・安全確認行動に当局は上へ下への大騒ぎ、これを全国でやったら「十一月ダイ改」などふっ飛ぶ。

眼前に到来した絶好のチャンスをもものにすれば事態は大きくかわる。

だとすれば、新執行部は、直ちに闘う体制を確立しなければならない。そして当面、最大の勝負は今月末、怒りと怨念をあと残された数十日間に叩きつけなければならぬ。

全国のすべての国鉄労働者が創意工夫をこらして、あらゆることを徹底的にやる。敵が一番恐れていることが全国で

しまこそ、全国を席卷する

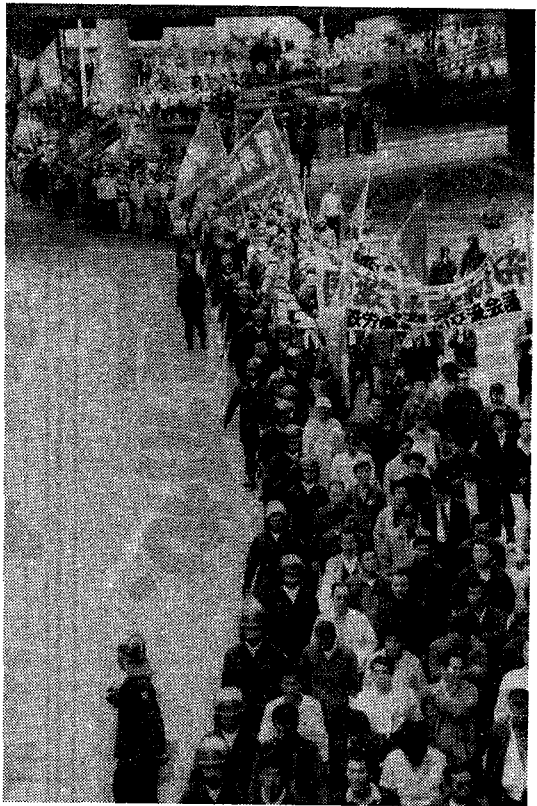
全国ゼネストを実現しよう

「国鉄分割・民営化反対」のスローガン列車が全国のあちこちで走る。「人活センター」解体のための実力闘争が起る。全国で当局の不当労働行為をドンドン摘発し、一真国労や動労革マルのような裏切り分子を糾弾粉碎していく闘い。順法闘争。全国ゼネストへのありとあらゆる創意的闘いが、これからまき起っていくにちがいない。

陸続とおこった時、総評・社会党も、まともに議論せざるをえないのだ。



「労使共同宣言」路線をうちくさし、屈服指導部を粉碎、新しい闘いの突破口を切り拓いた 国労臨時大会(10月9日~10日、修善寺町)



国鉄労働者を先頭に二五〇名が長蛇の国会包囲デモに
出発。(10月12日、赤坂見付・交叉点)

動労千葉は、十月一日から実施している「非協力・安全確認行動」を更に強化し、「分割・民営化」十万人首切り絶対反対、十一月ダイ改業務移管・広域配転阻止、人活センター解体をかかげて十月二〇日以降、波状的な「強力順法闘争」に決起する。そして、勝負は二六日からの一週間、「第三波スト」をも含むあらゆる戦術を駆使して、全国ゼネストをこじあげよう。

決戦中の決戦の十月下旬、国鉄労働者の力を中心とした一大国会デモを貫徹しよう。

勝利への旗を鮮明にかかげて、勇気をもって全国全職場から大胆な決起をかちとっていく。